

I. はじめに

学校教育課程における社会教育施設（生涯学習施設）の利用が重視されるようになり、「学社連携」「学博連携」などのスローガンが叫ばれるようになって久しい（例えば小川（2003）を参照）。そして、その連携の主体として学校教員と博物館職員に着目することが多いが（例えば中山ほか5名（2006）など、あるいは溝邊・藤井・野上（2007）のレビューを参照）、両者をつなぐ立場として、研究者である学芸員とは別に教員が博物館に在籍している場合がある。特に公立博物館の場合は、原則として教育委員会が管轄するべきものと法的に規定されていることもあり、教育公務員の身分を有する職員を配属する事例がみられる。この場合、学校現場で勤務してきた教員を教育委員会の諸業務に異動させるのと同様の人事制度によって博物館に配属する事例が多いようである。

しかしながら、このような「博物館に在籍する教員」の全国的な実態は明らかになっていない。例えば、文部科学省や日本博物館協会などが定期的に行っている統計調査においても、職員が学芸員資格を有しているかどうか、あるいは実態として学芸員の業務を行っているかどうかに着目するのが通例であり、教員としての属性に着目した調査は見当たらない。従って、一口に「博物館に在籍する教員」ないし「博物館教員」と言っても、各館における具体的な立場や役割が同じであるとは限らず、事業展開などで他館と連携することを考える上でも、そもそも連携が可能かどうかを判断するための情報に乏しい状況である。

この状況を改善するためにはまず、一般に「博物館教員」と呼ばれている職員に関する勤務状況などの実態をアンケート調査などで明らかにすることが必要であろう。もちろん、現段階では、前提となる情報が無いため調査項目を予め精査することが困難である。しかし、たとえ不完全ではあっても、まず実態の概略を明らかにすることが現時点では重要であり、またその成果は将来の調査を的確なものにするために役立つであろう。この考えのもとに調査を実施した結果について報告する。

II. 調査方法

著者（調査当時は共著者とも）が勤務する琵琶湖博物館に所蔵されている各博物館の年報などの報告書を基礎として、インターネットで公開されている各館の情報も利用し、教員が常勤している可能性があると思われる博物館152館を選択した。そして、2008年1月に該当館に郵便によるアンケート調査を実施した。このアンケートには「他に知っている、教員が常勤している博物館」を回答してもらった質問項目を設けており、その回答を集計すると、当初選択した152館に含まれない14館が検出された。そこでこの14館にも同じアンケート調査を同年2月に実施した。以上2回のアンケートの合計で、対象館166館のう

ち 119 館から回答があり、有効回答率を単純に計算すると 72%となった。

調査の正確性を期するならば、「博物館教員」とは何者であるかということのを的確に定義したうえで質問するべきであろう。しかし、その定義を定める前提が無い状態なので、今回は制度的に明確にできる「教員身分の職員（教員採用試験で採用された方）」という定義とし、微妙な事例（採用後に職種が変更されたり館長などの管理職に就いていたりして、教員としての立場が保たれていない場合など）の判断は各回答館に任せる形とした。

本論では扱わないが、在籍教員に関する質問の他に、学校団体の入館状況および学校団体向け支援活動の有無に関する質問も、同じアンケートで行っている。この質問を同時に行ったことにより、教員が在籍しない館が「該当なしゆえに無意味」と考えて回答を寄せないという行動をとることを抑止し、「教員が在籍する率」のデータに実質的な意味を与える結果になったものと考えられる。

なお、今回は分析が繁雑になるのを防ぐため美術館を調査対象から除外した。また、教員退職者が在籍している事例も確認できたが、質問項目が主として現職教員を対象としたものだったため、今回は分析の対象としていない。

III. 結果

1. 人数および専門教科

調査の結果、回答があった 119 館の 59%にあたる 70 館（表 1）に現職教員が在籍することが確認された。その分野別内訳は表 2 の通りであり、各分野に比較的バランスよくわたっている。

在籍教員の専門教科は表 3 の通りである。小学校教員で教科を明らかにしなかった回答は、そのまま「小学校」とした。「幼稚園」についても同様である。人文系に社会科（含地歴公民）、自然系に理科が多いのは当然として、国語・音楽・体育など、博物館の専門分野に関係の無さそうな教科の教員も居ることが判った。なお、美術の教員が多いのは歴史系で美術分野も扱っている館があるからである。

2. 職務分掌および研究テーマ

在籍教員の職務分掌について検討する中で、専門分野を担う職員（学芸員など）のほぼ全員が教員という館では、多くの職務を教員が担当しているという回答になっているという、考えてみれば当然の傾向に気付いた。しかし、今回の調査では学芸員などの人数について回答を求めなかった。そこでやむをえず、公表されている職員数情報などを利用して、学芸員などに占める教員の比率を算出してみたところ、ほぼ全員が教員である館と教員が圧倒的少数である館の両極端に分かれる傾向が見られた。例えば、3 分の 1 ずつの比率で単純に分類してみると、教員が 3 分の 2 以上を占める館が全体の 2 割前後、3 分の 1 未満という館が全体の 6~7 割となり、その中間は 2 割未満であった（表 4）。しかも、この「3

分の2以上」に該当する15館のうち12館は、教員の比率が80%を超えていた。

このうち、教員が学芸員などのうちで少数(3分の1未満)である館のみを対象として職務分掌を分析してみたところ、教員が研究や資料整備を担うとする館は半数程度であり、体験学習や館内での講義を担当しているとする館は8割以上を占めた(表5, 図1)。

「その他」として回答された自由回答(表6)を見ると、友の会やボランティア対応など、学校対応とは直接には無関係と思われる利用者対応を担っているとする回答が20例(教員が少数の館に限ると15例, 重複を除くと10館で教員少数館全体の22%)あった。但し、この中にはイベントや体験型展示を担当しているとする回答が4例あり、これは主に学校団体を意識した業務として位置付けられている可能性もある。

職務分掌に関する質問とは別に「最近の研究テーマ」について質問したのに対する回答を分析整理した結果は表7のようになった。自然系館で教育に関する研究が多いのは、実験教室やサイエンスショーの内容も含めた教材開発に関するテーマが多いことによっている。それに対して人文系館や総合館の教育系の研究は学校連携や学びについての研究が多かった。

3. 人事異動

在籍教員の人事異動に関する回答は表8のようになった。全体の52%にあたる36館(教員が少数の館に限ると70%にあたる32館)から、明文または事実上の年限があつて、学校現場等へ異動になるとの回答があつた。その他の多くも年限が特に定まっていないという回答で、原則として定年まで勤務するという回答は3館のみであつた。年限未定という回答の中には、本人の希望により長期在籍も可能という例もあつた。

年限は3年という回答が最も多く、5年という回答がそれに続く。なお、年限が1年という事例は、研修派遣という位置付けで博物館に配属される例である。

引用文献

溝邊和成・藤井浩樹・野上智行：スイスの科学系博物館における教師支援，科学教育研究，第31巻，第4号，421-431，2007。

中山迅・山口悦司・里岡亜紀・串間研之・松田清孝・山本卓也：サイエンス・コミュニケーターの力量を有する理科教師を育てる博物館研修の事例研究，科学教育研究，第30巻，第5号，316-331，2006。

小川義和：学校と科学系博物館をつなぐ学習活動の現状と課題，科学教育研究，第27巻，第1号，24-32，2003。

表1 現職教員の在籍が確認された館

北海道立文学館，札幌市青少年科学館，小樽市総合博物館，秋田県立博物館，盛岡市子ども科学館，仙台市科学館，仙台市博物館，山形県立博物館，福島県立博物館，福島県文化財センター白河館まほろん，ふくしま海洋科学館，ムシテックワールド，茨城県立歴史館，茨城県自然博物館，栃木県立博物館，小山市立博物館，群馬県立自然史博物館，群馬県立歴史博物館，県立ぐんま天文台，群馬県立ぐんま昆虫の森，山梨県立科学館，山梨県立博物館，山梨県立考古博物館，千葉県立安房博物館，千葉県立関宿城博物館，浦安市郷土博物館，埼玉県立川の博物館，埼玉県立自然の博物館，神奈川県立生命の星・地球博物館，川崎市青少年科学館，新潟県立歴史博物館，長野県立歴史館，富山県立山博物館，福井県立恐竜博物館，福井県立歴史博物館，福井県立若狭歴史民俗資料館，浜松市博物館，名古屋市科学館，碧南市海浜水族館，美濃加茂市民ミュージアム，三重県立博物館，京都市青少年科学センター，兵庫県立人と自然の博物館，兵庫県立歴史博物館，兵庫県立考古博物館，神戸市立博物館，姫路科学館，和歌山県立自然博物館，岡山県立博物館，広島県立歴史博物館，広島県立歴史民俗資料館，広島市こども文化科学館，鳥取県立博物館，山口県立山口博物館，徳島県立博物館，阿南市科学センター，愛媛県総合科学博物館，愛媛県立博物館，高知県立歴史民俗資料館，九州国立博物館，福岡県青少年科学館，北九州市立いのちのたび自然史・歴史博物館，佐賀県立宇宙科学館，佐賀県立博物館・美術館，佐賀県立名護屋城博物館，長崎市科学館，宮崎県総合博物館，宮崎県立西都原考古博物館，沖縄県立博物館

表2 教員が在籍する館の分野別内訳・在籍人数

	人文系	自然系	総合	合計
館数	23	26	21	70
在籍教員数	93	107	93	293
1館あたり 平均人数	4.0	4.1	4.3	4.2

総合館に教員身分の館長が2名居るのを含む

表3 在籍教員の専門教科(単位:人)

	社会	理科	国語	美術	その他	小学校	幼稚園	不明	合計
人文系	76	1	2	4	1	6	0	3	93
自然系	0	98	1	0	2	4	0	2	107
総合	29	29	3	4	5	9	1	13	93
合計	105	128	6	8	8	19	1	18	293

「その他」の内訳： 人文系＝体育，自然系＝技術×2

総合＝算数，情報，工業，農業，音楽

表4 職員に占める教員の比率による分類(単位:館)

	人文系	自然系	総合	合計
教員多数館（3分の2以上）	5 (22%)	5 (19%)	5 (24%)	15 (21%)
教員半数館（3分の1以上3分の2未満）	4 (17%)	2 (8%)	3 (14%)	9 (13%)
教員少数館（3分の1未満）	14 (61%)	19 (73%)	13 (62%)	46 (66%)
合計	23	26	21	70

表5 在籍教員の職務分掌(「その他」の自由回答を除く)(単位:館)

	館種(館数)	研究 調査	資料 整備	展示 企画	展示 製作	ウェブ 製作	印刷物 製作	下見 受付	館内 講義	体験 学習	観察 会	出前 授業
教員 多数館	人文系(5)	5	5	5	5	4	5	5	5	5	5	5
	自然系(5)	5	5	5	4	4	3	2	3	5	4	3
	総合(5)	4	4	4	4	4	4	3	4	3	4	4
	合計(15)	14	14	14	13	12	12	10	12	13	13	12
教員 半数館	人文系(4)	4	4	4	4	2	4	2	3	3	3	3
	自然系(2)	1	1	1	1	1	2	2	1	2	1	1
	総合(3)	3	3	3	2	2	3	2	3	3	3	3
	合計(9)	8	8	8	7	5	9	6	7	8	7	7
教員 少数館	人文系(14)	5	6	9	8	5	12	13	13	12	6	6
	自然系(19)	6	6	6	8	4	6	10	11	10	4	7
	総合(13)	10	12	12	12	7	12	11	17	18	15	13
	合計(46)	21	24	27	28	16	30	34	41	40	25	26
教員 少数館 の内の 比率	人文系(14)	36 %	43%	64%	57%	36%	86%	93%	93%	86%	43%	43%
	自然系(19)	53%	63%	63%	63%	37%	63%	58%	89%	95%	79%	68%
	総合(13)	46%	46%	46%	62%	31%	46%	77%	85%	77%	31%	54%
	合計(46)	46%	52%	59%	61%	35%	65%	74%	89%	87%	54%	57%

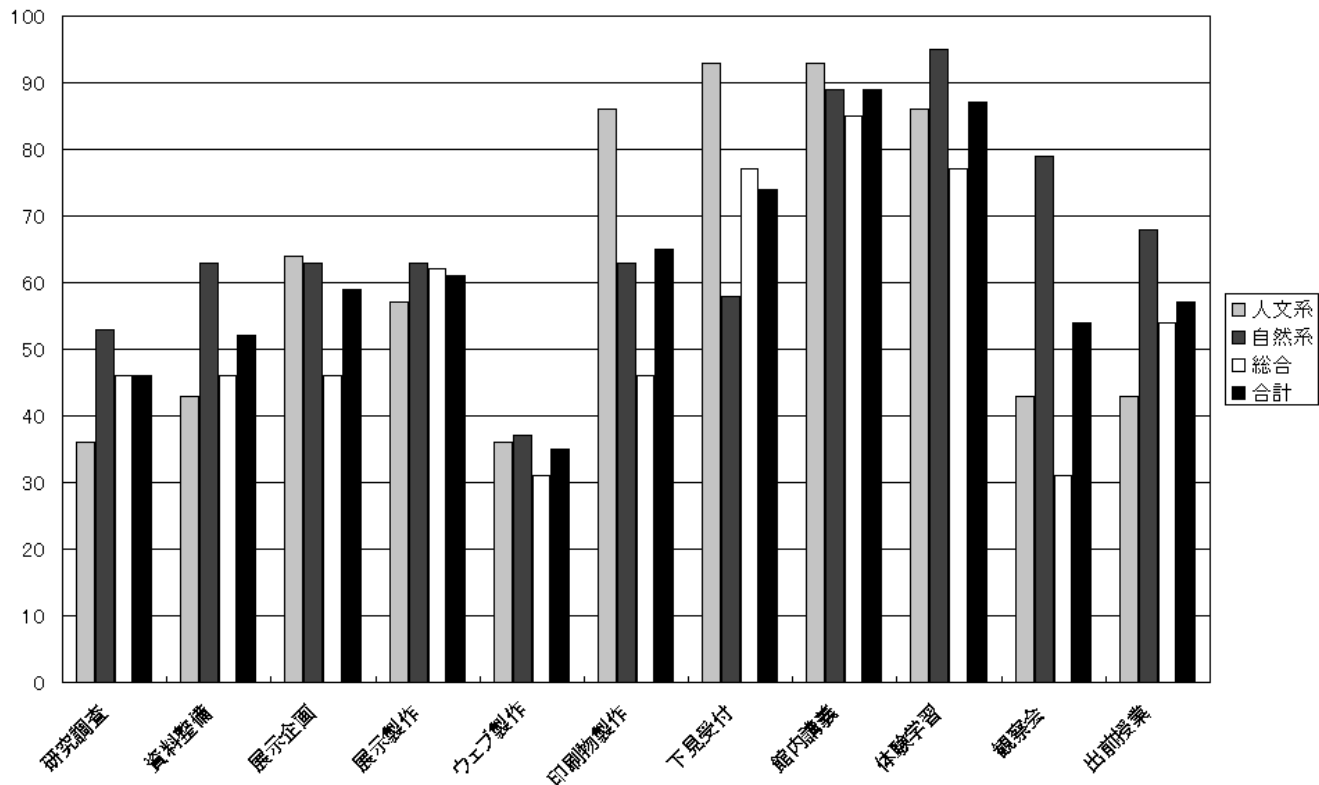


図1 教員少数館のうち在籍教員が各々の職務分掌を担うとする館の比率

表6 在籍教員の職務分掌について「その他」の自由回答に挙げられた内容

【学校対応に関する内容】

科学館学習，教員研修（以上，教員多数館），移動科学館，学校移動博，副読本委員会，出張授業，教員研修，大学実習（以上，教員少数館）

【学校以外の利用者対応に関する内容】

イベント（以上，教員多数館），ボランティア，解説員シフト，解説員指導，友の会（以上，教員半数館），ボランティア×7，友の会×3，指定管理指導，イベント，体験型展示室，プレイミュージアム，活用推進委員会（以上，教員少数館）

【利用者対応以外の内容】

望遠鏡管理，図書，情報システム（以上，教員半数館），マスコミ対応，営業活動×2，研究報告書，紀要，県博協（以上，教員少数館）

表7 在籍教員の「最近の研究テーマ」についての回答の分類(単位:人)

	専門	教育	両方	なし	無回答	館長	合計
人文系	49(53%)	12(13%)	4(4%)	10(11%)	18(19%)	0(0%)	93
自然系	26(24%)	37(35%)	0(0%)	38(36%)	6(6%)	0(0%)	107
総合	55(59%)	16(17%)	0(0%)	5(5%)	15(16%)	2(2%)	93
合計	130(44%)	65(22%)	4(1%)	53(18%)	39(13%)	2(1%)	293

人文系の「教育」にはボランティアに関する研究1名を含む

表8 在籍教員の在籍年限(単位:館)

	未定	1年	2年	3年	5年	6年	7年	3年以上	終身	無回答	合計
教員多数館	7			2	2	1	1	1		1	15
教員半数館	6								2	1	9
教員少数館	12	3	2	15	6	3		3	1	1	46

「3年以上」＝「3年～何年」という形で幅のある回答をした館

(上限は6年, 8年, 10年の3通り)